

## 第19回石川県内水面漁場管理委員会議事録

### 1 日時及び場所

令和5年8月29日(火) 11時30分から  
白峰漁協事務所(お食事処・ギャラリー小右衛門)2階

### 2 招集者の氏名、議事事項及び通知を發した年月日

(1) 招集者氏名 会長 八田 伸一

#### (2) 議事内容

- ①全国内水面漁場管理委員会連合会による中央省庁に対する提案行動結果
- ②その他

(3) 通知を發した年月日 令和5年8月7日

### 4 出席委員(9名)

会長	八田 伸一	会長代理	河本 幸治
委員	金田 一義	委員	林 紀代美
〃	河西 秀晃	〃	森 信子
〃	島田 明子	〃	加藤 唯央
〃	柳井 清治		

### 5 欠席委員(1名)

委員 國盛 孝昭

### 6 説明員等

水産課	藤原水産課長、海田課長補佐、島田主任技師
内水面水産センター	相木専門員
事務局	木本局長

7 議事の顛末 別紙のとおり

### 8 結果概要

- (1) 全国内水面漁場管理委員会連合会による中央省庁に対する提案行動結果  
事務局より説明を受けた。(資料-1)
- (2) その他  
特になし

### 9 閉会の日時

令和5年8月29日 12時15分

委員会終了後、内水面における現状と課題などの意見交換会及び白峰漁協養殖施設視察を行った。



の種ごとの異常繁殖の原因究明及び効果的な駆除・防除方法の開発とその異常繁殖防止に努めること。」と提案したところ。

国土交通省からは「オオカナダモ等の異常繁殖への対応でございますが、河川管理者としては、地元市町村や都道府県の関係部局等と連携をして、外来生物等の除去対策に努めてまいります。」と回答がありました。環境省からは、「外来植物は本当に繁茂してしまって、いろんな影響が出ていると承知しておりまして、環境省としては水生生態系に影響を及ぼす特定外来生物の駆除ですとか、増加等の原因究明の取組実施しておりまして、ご指摘いただいた3種ではないんですけども、オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウ、これについて琵琶湖における生態系被害防止の観点から地元自治体ですとか協議会と連携しまして、平成26年から防除事業を実施してきたところです。防除方法の開発事例としましては、環境研究総合推進費という研究予算がございまして、これによりオオバナミズキンバイの拡大防止策と効果的防除手法にかかるマニュアル、これを作成しており、農水省がナガエツルノゲイトウ駆除マニュアルを令和5年に更新されていて、この更新にあたっては、当省からも技術的な観点で情報提供等して、協力をしてきているところでございます。」との回答を得ております。

これらの回答は、いずれもこれまでと同じものであり、残念ながら新たな回答は得られませんでした。また来月の委員会時でも相談なのかと思っておりますが、来年度の要望事項についてもこのことを踏まえつつまだまだ足りない回答なので基本的には再度要望していくのか、と思っております。以上ボリュームのある内容なのですが、本県として提案した項目に絞った回答の説明となります。

八 田 会 長

この他、石川県に関連する内容はあれば紹介してください。

島田主任技師

例えば、19ページの提案項目7の「濁水現象が発生するダム（農業利水用のダムを含む）については、放流水の濁度の基準化を行い、濁水対策施設の整備など、濁水の下流河川への流入が長期化しないよう関係者と協議するとともに、必要な対策を講じること。また、貧酸素水放流やダムのヘドロの堆積による影響も懸念されていることから、ダムが河川の水産生物に与える影響についての調査を十分に行うとともに、必要な対策を講じること。」とありますが、犀川ダムや河西委員からも以前お話のあった、赤瀬ダムの放流水のヘドロの問題なんかはまさに本県でも同様の事例だと思えます。

農水省からの回答は「地元の関係者と協議しながら設備の運用の改善や追加的な設備の必要性を検討するなど適切に対応してまいります。また、貧酸素水放流やダムへのヘドロ堆積による影響については、現時点で具体的な事例を承知していないのですが具体的な事例があればお聞かせ願いたいと思っております。」とあり、まさに本県でも具体的な事例があるところなので、伝えてもいい内容だと思っております。

八 田 会 長

河西委員がいつも言っている話だと思えますが、今年初めて犀川でも鮎が育たないという現象が生じています、と言いますのも、5

月6日くらいから鮎を放流しており、また4月から5月くらいにかけて例年よりコケが多かった。そこで史上最高の遡上量が期待できるかな、ということでした。また、犀川に法師堰堤という堰堤がありますが、この上流は7月の第1日曜日が解禁なのですが、6月3日に放流をしようと思ったのですが、水が濁っていたので6月6日に320kg、大体10センチくらいの岐阜県の鮎を放流したんですが、なぜか川にいない。そこでイワナ釣りを釣る人や溪流釣りをする人に聞くと、犀川はヘドロでいっぱいだと、水が汚くてサクラマスもたくさんいたんですが、全然いなくなりました。これは大杉谷川の河西委員のいわれるあの状況と一緒にあったんだな、と思っています。ダムができて50年が経ちますが、ダム底には流木だとかヘドロがたまって、底の水を出しても水が流れないという状況になっていると思います。自分が組合長して放流してから10何年経ちますが、こういう状況になったのは初めて。なので前もって県の方にもこういうのは調査できないか、などお願いしているところです。結局ダムも湧水で水がないため維持だけの放水になっているのでなおさら。今、川では鮎が成長するだけの水がない状態だと思いますし、当然水質も悪いです。浅野川でとっていた鮎をこの水を使って生かしておくとすぐに死んでしまいます。こんなことは今までありませんでした。水がとにかく少なく、毛針釣りの人もいない。ヤマメの子も全然いない状態。皆さんにこうした初めて状況であることをお知らせしておきたいと思います。

それでは、何か質問あればお願いします。

柳井委員

酸素が足りないというのは、微生物が酸素を分解して、それで貧酸素水塊ができて、魚が死んでしまう、ということでしょうか。

八田会長

そうかもしれない。柳井先生は専門なので、私らはそういうふうと言われるとそうなんじゃないかと思います。なんせ溪流釣りの方がこんな川じゃ岩魚釣りに行きたくない、と言われており、なんで、と聞くと川が汚くてダメだと。例えば、犀川ダムと内川ダムがありますが、内川の方にはサクラマス、つまりヤマメを重点的に放流しているのですが、そこも面白くない、と言われている。やっぱり川が汚い。水に関しては柳井先生のおっしゃったとおりかもしれません。

柳井委員

結局流量が少ないし、濁ってなお悪くなると思います。

八田委員

手取川ダムからの水はほんとチョロチョロくらいしか出ていない。

金田委員

手取川ダムは何か決まったルールがあって水を出しているのでしょうか。

八田委員

最低これだけの水量になれば出す、というようになっています。

島田主任技師

ダムの運用そのものは、県の規則を定めており、その規則に従って放水されており、八田会長がおっしゃったように、この水位になれば出す、という運用。ただし頻度というのは、そもそもこれだけ雨

が降らないとそもそも貯水量が少ないため、頻度は必然的に減ってしまう、つまり頻度が決められているのではなく、決まった水位で出すというような形です。今年はかなり雨が降らないことで頻度は少なくなっていると思います。

八 田 会 長

金沢市の水道局、末の浄水場に聞いてみたところ雨がなく水量が少なく困っているとのこと。台風も今3つきているが、どれか1つでもこっちにきてほしいくらい。そんな状態で、これはこのままいけば農業用の水も不足してくる話です。なんせ水が少ないことで柳井委員のいわれるようなことなんかも起きるんだと思います。ヤマメなんてそこそこ強い魚にも関わらずいなくなったのは、ものすごいショックな話。この時期、網をいれるとヤマメも鮎も入ったものなので。

島 田 委 員

水温の話なんでしょうね、やはり。

八 田 会 長

そうだと思う。今年だけの問題なのか、水が出て、それで鮎がそだってくれるのか、毎年18-20センチの鮎が犀川上流で釣れますので、これを例年みなさんに食べてもらっていたのだが、それがいないのは非常に残念です。

島田主任技師

20ページにもすでに入っていますが、ここまで議論も出たところなので、来月の委員会でも相談します、令和6年度の中央省庁に対する提案要望の中に追加要望として検討してみてもいいのかも。こうした異常なほどの暑さや水不足の他、やはりすごく気になるのは、2年連続で生じた大雨による土砂災害、今年は金沢漁協の大瀬さんのところが被害にあいました。昨年度はまさにこのあと視察します、白峰漁協で。暑さや水不足の話と逆の話ではあるが、こうした今までなかった気候変動による災害に対する、できうるだけの予防的な措置が、養殖場だけでなく、河川であっても今後導入していけるようなことを提案として出してもいいのかな、とも思います。

加 藤 委 員

2年続けて大雨があるが、今までは河川にかかっている木々や雑草があって、水温が保っていた水が、全く今は青空状態なので、日中に温められる。また夏の夕立も昼間に温めされた石を通じて川に流入するので、お湯が入っている状態と同じ。

八 田 会 長

そう、まさにうちも全く同じ状況。

加 藤 委 員

ヤマメは24~25℃では死なないのですが、今年は死んでいます。またこれまでの経験上死ぬのは、酸素不足だろうと思い、空気を送り込んだら、外気の暑い空気を送り込んだので水温があがり、もっと死んでしまいました。酸素が足りないのでエアを送りこむ、というのができない状態で非常に難しい話です。

八 田 会 長

それでは、最後に事務局から、その他で何かあればよろしく願います。

島田主任技師

次の委員会について案内させていただきます。次回は、9月26日(火)の13時30分から、場所は再び、いつもの県庁11階1110会議室で開催したいと思います。

八 田 会 長 | 皆様よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の委員会を終了します。

以上、会議の顛末を記録してその正当であることを証するため署名をする。

会 長 \_\_\_\_\_

署名委員 \_\_\_\_\_

署名委員 \_\_\_\_\_